

「2017年国立台湾大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部2年 (氏名) 横山雄大

今回のプログラムを通して自分は大きく3つの点で成長をできるのでは、と期待して出発しました。プログラム中は、その三点は意識せずに台北に在留しました。そのため意識しすぎて固くなるようなことはなかったもので、それがよく働いたのかもしれませんが。そして終了後に振り返ると、それはかなりの割合で達成できたのではないかと思います。

第一に、当然だが中国語のレベルを上げることです。これは授業の質が良かったため、簡単に達成できました。特に、会話とテキストを組み合わせた教え方がよかったのではないかと思います。また、他校の生徒に台湾にアイデンティティを持つ生徒が多かったため、彼らを通じて吸収したものもありました。これからの中国語学習への方策が立ったのではないかと、と思います。

第二に、現地文化への理解を深めることを目標としていました。これは三週間を通じた経験の中で、成し遂げることができました。先に述べた他校の生徒との対話により、彼らの考えの一部を見ることができたのではないかと思います。自身の専門の観点からも非常に興味深く感じました。また、一日かけて台北市内を自転車で回った際も、宗教施設へ訪れるなどすることで、より深い理解を得られました。台中を訪れることで、台北との違いや、228事件といった台湾のナショナルアイデンティティにかかわる問題への理解を深めることができました。

第三に、未来に向けて長期滞在のトレーニングを行うことでした。健康も害せず、特に問題も起こすことはなかったため、この点は難なくクリアできたと思います。また、ホームシックになることもなく、適応にも苦労することはありませんでした。ただ、金銭面での見立てが甘かった、というのは痛感させられました。実際の長期滞在の際はより一層の注意が必要だと感じました。

また、これまで国際協力への興味が薄い状態でした。しかし、必要に迫られてというのも大きな要因ではありますが、ある生徒から受けてやってみようというやる気が生まれました。予想外の収穫でしたが、もしかすると将来に対して一番大きな影響があるかもしれません。

このように、三週間という短い期間ながら大きな収穫がありました。特に関東の学生との交流は大きな刺激となりました。本番まで半年程度残すのみだが、この経験を生かして一層の努力に励みたいです。その結果、将来へ大きく役立つものになると確信しています。